

「家族・社会関係論」

Familie- und Sozialverhältnis

- ・ 講師：ウタ・マイヤー＝グレーヴェ教授（家政学・家族社会科学）
Prof. Dr. Uta Meier-Gräwe von Justus Liebig Universität Gießen
- ・ 日時：9月9日～10月21日、毎週水曜日 13:45～16:00
- ・ 教室：共同利用棟A202（9月16日のみ1B208）
- ・ 使用言語：ドイツ語・日本語（Deutsch-Japanisch）
逐次通訳：ラプッシュ麻衣（ミュンヘン大学日本学部修士課程）
Dormetscherin: Eike Mai Rapsch
- ・ テーマ：
 - 9月9日 家族構造の変化と変わる性別役割像
Strukturwandel von Familie und veränderte Geschlechterrollenbilder
 - 9月16日 家族と教育—社会構造の再生産のための貢献
Familie und Bildung - ihr Beitrag zur Reproduktion der Sozialstruktur
 - 9月30日 家族：健康と余命—新しいリスクの認識—そしてそれから？
Familie: Gesundheit und Lebenserwartung - Neue Risiken erkennen - und dann?
 - 10月7日 家族：貧困と栄養摂取—なぜ我々は、総ての子ども達のために刺激の豊かな社会的空間を必要とするのか？
Familie: Armut und Ernährung - warum wir anregungsreiche Sozialräume für alle Kinder brauchen?
 - 10月14日 家族を支援するサービス給付—将来性のある就業領域
Familienunterstützende Dienstleistungen - ein zukunftsfähiges Beschäftigungssegment
 - 10月21日 試験段階にある家族政策とジェンダー政策
Familien- und Genderpolitik auf dem Prüfstand

講師紹介

ウタ・マイヤー＝グレーヴェ教授（ギーセン大学教授）

Prof. Dr. Uta Meier-Gräwe von Justus Liebig Universität Gießen

<学歴・職歴>

1972-1975年 東ベルリンのフンボルト大学にて経済学と社会学を専攻

1978年 フンボルト大学にて産業社会学のテーマで博士号取得

1986年 フンボルト大学にて家族社会学博士B取得(ドイツ統一条約により教授資格相当)

その後、旧東ドイツにおいて、社会学および社会政策の研究所研究員などを経て、1989年ベルリンの壁崩壊直前に西ドイツ亡命、その後、東西統一をミュンヘンで迎える。

1990年-1994年 公益社団法人ドイツ青少年研究所（ミュンヘン）学術研究員

1994年-現在 ギーセン大学教授（家政学・消費調査研究所教授）

<ドイツ国内における社会的活動>

1993年～98年 ドイツ家族計画協会” Pro Familia” 連邦代表

2002年～現在 チュービンゲン州議会「学校教育としつけ」調査委員会委員

2003年～06年 ドイツ連邦議会第7家族報告書作成専門家委員会委員

2003年～現在 ドイツ青少年研究所学術諮問会議委員

2004年末～現在 家庭と社会における子どものためのドイツ連盟副会長

2006年～09年末 ザーラント州議会「人口構造変化」調査委員会委員

2008年～現在 ドイツ連邦議会ジェンダー平等第1報告書作成専門家委員会委員

<国際交流活動>

2006年3月 筑波大学等主催第1回日独国際会議「家族のための総合政策」に報告者として招へい

2006年9月 北海道大学にて開催された第2回日独国際会議に報告者として招へい

2007年8月 第2回日独国際交流事業「ヤングリーダーズ・フォーラム」（東京）に招へいされ、メルケル首相等と共に人口構造変化と家族政策に関する基調講演

2008年11月 筑波大学等主催第2回日独国際会議「家族のための総合政策」に報告者として招へい

<筑波大学での身分>

国際連携プロジェクト・外国人受託研究員（2009年9月1日～11月15日）

「日独における家族政策とジェンダー政策～国・企業・地域レベルでの政策効果～」

（2010年9月開催予定の第3回日独国際会議「家族のための総合政策」の準備を含む）